

# 大和合金

# 航空機部材、欧州でPR

## 独、英の航空ショーに初出展



銅合金鋳鍛品メーカーの大和合金(本社・東京都板橋区、社長・萩野茂雄氏)は今後3年内に欧州航空機市場での素材受注を目指している。今月からは相次いで欧州の展示会に出展。18日に閉幕した「ベルリンエアショー」は航空機や部品メーカー

ではアルミ青銅のギア用押出部品や、センサ部品向けの高性能NC合金などを紹介した。7月にはイギリスで開催される「フアンポローエアショー」にも参加する予定。

ベルリンエアショーは航空機や部品メーカー、航空会社など一千社以上が参加する大規模な展示会。出展は東京が展開する産業支援事業のサポートを受けた。欧州ではメンテナンスを限定した製品紹介イベントには参加実績があるが、一般公開の展示会には初出展。

フリスではマッチングの商談会も行われ航空機のパーツメーカー、商社などが大和合金のスペースを訪れた。写真。萩野源次郎常務は「同業の合金メーカーから材料を供給して欲しいという引き合いもあり、収穫が多か

った」と話している。

同社の航空機関連事業はランディングギア向けの鍛造・押出部品が主力。アルミ青銅製のブッシュと呼ばれる加

工品を出荷している。海外取引は足元数%だが、中国での拡販を目指した取り組みを強化しており、年内の受注を目指している。

欧州市場はその次のターゲット。国内・中国ではメンテナンス用の更新需要が中心となっているが欧州にはエアバス向けの部品メーカーが多く、採用されればまとまった量が見込める。今後について

は「品質は十分。あとはコストでも勝負できる工夫を重ねたい」(萩野常務)という。